

ホップ・ステップ・ジャンプ！



～本校の学力向上の取組について～

今年度も本校の取組に対してご理解とご協力をいただき、まことにありがとうございました。金子小学校では、日頃の児童の様子や、昨年度までの学力テストの結果を参考に、主に以下のことに重点的に授業づくりに取り組んでいます。

- 自ら学ぶ力の基礎となるスキル（相手を大切にしたい聞き方、話し方・問題の解き方など）や望ましい学習習慣（書く姿勢・机の上の使い方・ノートのとり方など）の定着を図る授業
- 小集団（ペア・グループ・自由交流）の中で、自分の考えを表現し、自分とは違った友達の考えに触れる「伝え合う場」のある授業
- 課題を自ら解決していこうとする目的意識を持つことができる授業
- 算数科において、思考過程を図や絵で表し、説明し合う場を取り入れた授業

令和3年度全国学力・学習状況調査について

令和3年度に実施した全国学力・学習状況調査について、概況についてはすでに報道がなされていますが、結果からうかがえる、本校の特徴と改善点は以下の通りです。

【国語科】

- 基礎・基本が定着している。
- 文章が伝えたいことを理解できている。
- 文章を読んで、自分が思ったことや分かったことを表現することができる。
- ▲ 文の構成（特に修飾と被修飾）の関係を捉えられていない。
- ▲ 長い文章や図・資料がある文章に対して苦手意識がある。
- ▲ 条件に応じて答えるのに必要な語や文を見付けられていない。
- 読むことに慣れるためにも、読書量の確保と普段から長い文章に触れることが大切
- 目的に応じて、必要な情報を捉えるために、中心となる語や文に線を引いたり囲んだりすることが、進んでできるようにしていくことが必要。

【算数科】

- 基礎・基本が定着している。
- 基本的なグラフ等の読み取りができる。
- ▲ 言葉を使って、式の意味や理由を説明することを苦手としている。
- ▲ 図形の性質の理解に課題がある。
- 算数は日常生活と密接したもの。実生活に役立つ経験や体験をたっぷりとさせることが重要。
- 式を指さしながら説明したり、絵や図にかいて問題を整理したりできるようにする。



裏へ続きます！→

質問紙調査より（○：肯定的な解答が多かったもの ▲：否定的な解答が多かったもの）

- 毎日、同じくらいの時刻に起きている。
- 朝食を毎日食べている。
- いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。
- 友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができている。
- 算数の勉強は大切だと思う。
- 算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思う。
- 国語の勉強は大切だと思う。
- ▲ これまで、学校の授業以外で、英語を使う機会があった。
- ▲ 地域や社会をよくするために何をすべきか考えたことがある。
- ▲ あなたは学校で、コンピュータなどの ICT 機器を、ほかの友達と意見を交換したり、調べたりするために活用している。
- ▲ 今住んでいる地域の行事に参加している。
- ▲ 新聞を読んでいる。
- ▲ 毎日の家庭での読書の時間・・・10分未満・・・28.7%、全くしない・・・25.7%
- 生活様式の変化に伴って、新聞や本を読む児童が少なくなっている。
- 算数や国語の学習について、大切に将来役に立つと思っている児童が多くいる一方で、「好き」と答えている児童が少ない。「大切だと言われるから、仕方なくやる」から、「楽しいからやりたい！」になるようにしたい。



調査を実施した5月よりも、タブレット端末を用いた授業の機会が増え、学習道具の一つとして定着しつつあります。それに伴い、新たな課題も見受けられます。例えば、キーボードを用いて入力する際のローマ字入力です。入力に時間がかかることで問題に取り組んだり考えたりする時間が少なくなっている可能性があります。中学校で導入されているノートパソコンを使いこなすためにも、ローマ字の定着が必要になってきます。

児童がタブレット端末を有効に活用できるような環境づくりに、力を注いでいきたいです。

タブレットを用いた学力調査を終えて・・・

今年度、5年生（愛媛県学力診断調査）、6年生（チャレンジテスト）がタブレット端末を用いた学力調査を実施しました。来年度以降、本格的に導入が予定されており、授業などでもタブレット端末を用いたミニテストなどの実施が検討されています。

タブレット端末を活用することで、テスト等の結果がすぐに集計され、グラフなどを用いた資料が短時間で児童や教師のもとに返却され、苦手の克服や授業の改善に生かすことができるという利点があります。

課題としては、上記のローマ字の力に加え、タブレット端末の基本的な操作（拡大・縮小、手書きメモ機能の活用、計算用紙等を併用した問題の解き方）が考えられます。児童が使い慣れていないことで力が十分に発揮されないということにならないように指導していくことが必要だと感じています。

